

編集：鈴木真理  
和訳：山口遼

2016年11月のボストンキャリアフォーラムに、2016年秋期商務部インターン生である甘利円さんと飯野和希さんが参加し、二人とも複数の内定やインターンシップを獲得しました。このコラムでは、二人のボストンキャリアフォーラムにおいて気を付けた点や意識した点、さらには秘訣をシェアしていただきます。



### [参加者プロフィール]

甘利円 早稲田大学国際教養学部三年生、国際関係論専攻  
2年次にペンシルベニア大学へ交換留学し、メディア学と哲学を専攻した。  
将来、国際経済に携わることのできる環境で働きたいと考えている。

飯野和希 早稲田大学国際教養学部三年生、国際経済専攻  
2年次にミシガン大学アナーバー校へ交換留学、PPE（哲学政治経済）などを学んだ。  
大使館においてインターンシップを行なう以前は、国会議員やフィンテック企業でインターンシップを行っていた。

Part 1	ボストンキャリアフォーラムとは何か
Part 2	事前準備と心構え
Part 3	キャリアフォーラムの後
Part 4	まとめ
Part 5	キャリアフォーラムのモデル準備日程

## **Part 1** ボストンキャリアフォーラムとは何か

ボストンキャリアフォーラム（略称：ボスキヤリ）とは、ボストンにおける3日間の就活イベント（基本的に11月の金曜日から日曜日にかけての三日間）であり、バイリンガルな学生（英語と日本語）を日本において採用したい企業が集結します。コンベンション施設などで行なわれ、合計200以上の企業がブースを展示会のような形式で出すこのボストンキャリアフォーラムは、学生にとって三日間で仕事やインターンシップを獲得できる絶好の機会でもあります。以前はアメリカ合衆国の大学に通っている学生を対象に催されていましたが、今ではアメリカの大学生のみならず、海外の大学や日本の大学に通うバイリンガルもが参加する、一大イベントとなりました。企業が探すポジションの大半が日本におけるものですが、アメリカにおけるポジションもあります。国際的な場において活躍したいと考え、日本語、英語の両方を話すことができる学生にとって、これは通常の就活の枠組みの外で職を見つける絶好の機会です。さらに、海外と比べて日本における就職は専攻や志望業界による影響が比較的に少ないため、一人が応募できるポストの幅がとても広いということも特徴です。いろいろな業種に興味がある方には良いシステムだと思われます。

甘利：私は日本の大学を卒業しますが、私の海外経験と言語力を活用できるようなポジションを探すため、ボスキヤリに2回参加しました。私のように、日本の大学に通いながらもバイリンガルである大学生がボスキヤリに参加することは、最近ではよくある話です。私は様々な業界の複数の企業から、内定とインターンシップの両方を頂くことができました。日本にいる学生はボスキヤリに行くことを思いとどまるかもしれませんが、心配する必要はありません。

飯野：ボスキヤリに参加する学生の大半が英語力のある日本人です。しかし、最近では日本語を学んでいる参加者も増えました。参加する企業の多くはネイティブレベルの日本語を求めないので、個人的には日本国籍以外の人も応募し、参加するべきだと思います。企業はどの程度の言語能力を求めているかをキャリアフォーラム上のページに記載しているため、言語能力の観点から見てどの企業が自分に合っているかを見極めることができます。例えば、日本で業務を行なう外資系金融企業はネイティブレベルの日本語が必須というわけではありません。IT企業も、技術職においては高レベルの日本語は求めません。さらに言うと、日系企業は厳しい研修制度があるので、システムエンジニアになるためにはコンピューターサイエンスを専攻している必要もありません。

## どのような企業が参加するか

2016年度は211の企業がボストンにあるハインズコンベンションセンターに集結しました。日系外資系企業ともフルタイムとインターンシップの募集を行なっています。具体的に例を挙げると、ANA、UNIQLO、フジテレビ、博報堂、日立、JAL、そして三菱などが参加します。外務省、日本銀行、日本政策投資銀行、JICAなども2016年度は参加しました。外資系では、Amazon、アクセンチュア、AIG、ペインアンドカンパニー、ゴールドマンサックス、デロイト、ゼネラルエレクトリック、そしてTwitterなどが頻繁に参加しています。とはいえ面接官とブースの場所の確保にかかる費用などは決して小額ではありません。企業はこれにかかる費用に見合う人材を採用しようと思っっていることは確実です。

飯野：日本の大学に在学しながら、フォーラムに参加する事を考えている学生は、どの区分で応募するかを慎重に考えるべきです。いくつかの企業はボストンでの候補者と日本での候補者とで区別しており、採用スケジュールや基準などが異なります。そのため、どの採用プロセスが自分のスケジュールと能力に合っているかを確認することが重要となります。一般的に、ボストンにおける採用プロセスは非常に短く、国際性と言語力を重視します。どの選考方法が自分がより目立つか、どのプロセスが自分にとって最適であるかなどを戦略的に考えると良いでしょう。

甘利：飯野さんが言うように、どの採用プロセスを選ぶかはとても大切です。ボストンと日本、両方の採用プロセスを踏ませてくれる企業があるかも調べておくべきだと思います。さらに、多くの企業は大学4年時における夏季インターンシップを提供していますが、インターンシップの倍率が高ければフルタイム採用に繋がることも多くあります。

## なぜ参加するべきか

日本の就職における典型的なプロセスを踏むと基本的に4ヶ月ほどかかります。一般的な学生の場合、60のエントリーシートを提出、40のWebテストを受験、30の面接、そして3つの内定がよくあるパターンです。ボスキヤリの参加にかかる費用の総額は決して安くはありませんが、ボスキヤリのために行った調査や面接をの経験そのものがいずれ日本での就職活動に役立つことは間違いありません。

甘利：2度目に参加したボスキヤリではしっかりと準備を整えることができました。同じようなスーツを着た1万人を超える学生に囲まれているためか、会場も殺伐としています。そのような環境に3日間いることで、面接にも慣れていきます。2回目の参加では、落ち着いて面接にのぞむことができました。

飯野：私は今年初めて参加しました。当然ですが、甘利さんと比較すると、ボスキヤリに関する知識と経験は明らかに不足していました。しかし私は過去に出席した先輩や友人が多くいたため、彼らの話やアドバイスなどを聞いたことで、内定などを複数得ることができました。先述の通り、ボスキヤリではかかる費用に見合った経験ができます。なにより企業の採用プロセスがわずか3日間で終わります。これは通常の採用プロセスでは考えられない早さです。参加を強くお勧めするとともに、これからお話しさせていただく内容が皆さんのボスキヤリでの成功

につながると嬉しいです。

## Part 2 事前準備と心構え

### どのように応募しましたか？

ボスキャリ参加企業は Web 応募の受付を約 3 ヶ月前から開始します。学生は、Web 上で日本語と英語の両方を使い履歴書を作成することが可能です。企業側は履歴書のほかに、英語または日本語の論文式問題が出題されますし、性格診断や数学の力を計るためのオンラインテストを行う場合があります。1 次選考の後には多くの企業が Skype または電話での面接を行い、こうした面接はフォーラムの 2 ヶ月ほど前から開始されます。企業側は応募のあった者から順次選考を行うので、早めに応募することで、会社に強い関心をもっていることをアピールすることができます。

甘利：私はフォーラムが開催される 4 ヶ月ほど前に応募しました。最終的にフォーラムの前には相当数の面接を行い、出国の前にはすでに、夕食会を含めた現地での日程がある程度決まっている状態でした。フォーラム中、企業のブースを訪れることもできますが、企業側に面接する時間の余裕がない場合があります。ウォークインの約束を獲得するためには、綿密に構成された魅力のある履歴書を作成する必要があります。時には企業が学生に対して、フォーラムの数日前にボストンに来るよう連絡したり、日本のオフィスで面接するように要求する場合があります。

飯野：事前応募はとても重要です。フォーラムが始まるまでに、企業側はすでに第 1 段階、第 2 段階そして最終インタビューにいたる綿密な日程を作成しています。それぞれの予定人数の枠は限られているため、事前に応募した人の方により高い優先順位が与えられる可能性が高いと言えます。もちろん、ウォークインにおいてチャンスを作ることも可能ですが、その場合には、企業側に自分の魅力をアピールできるよう綿密な準備を行うことが求められます。さらに、企業によってはごく少数の学生としか面接を行わず、有名大学の限られた学生とのみ面接を実施している場合があります。すべてのプロセスにおいて情報収集がとても大切です。

### 渡航の計画時期

フォーラムの参加を決めたら、すぐに渡航の準備を始める必要があります。企業は面接を行う数年前からホテルや飛行機を予約しているため、手ごろな値段のホテルや航空券はとても限られてきます。余裕を持って航空券を予約し、友人とホテルの部屋をシェアできないか確認するのが良いでしょう。Air B&B などを利用するのも選択肢の一つです。

甘利：私は 6 月に航空券を購入しましたが、そのときにはすでに価格は高くなっていました。私はハイネスコンベンションセンターに比較的近いホテルに滞在していました。

飯野：私は 9 月に飛行機とホテルの予約をしました。予約するのが遅かったため、ホテルの部屋の価格は高くなっていました。コンベンションセンターの周辺で利用できそうな部屋がわず



かしかなかったため、結局センターからタクシーで30分ほどのホテルに滞在することになってしまいました。こうした経験から、3日間の滞在における負担を軽減するためにも、早めの予約を強くお勧めします。また、私が応募したある会社からは、グループ面接を実施するためフォーラムの始まる2日前にボストンに来るようにとの連絡を受けました。残念なことに、フォーラムの1日前に到着予定の飛行機の便をすでに予約していたため、このグループ面接には参加することができませんでした。そのかわり日本で行われる個別面接に参加できるチャンスが与えられたのですが、急な予定の変更で行ったり来たりする羽目になり、余計に疲れることになりました。選考に影響を与えるこうした突然の予定が入ることを考慮して、フォーラムの開催前の数日を予備日として確保しておくのが良いでしょう。

### どのように応募する企業を選んだか

多くの企業は、学生の専攻分野に制限を設けていません。企業によってはネイティブレベルの英語と日本語、あるいはどちらか一方のみの能力を求めますが、そうでない企業もあります。学生は語学スキル、これまでの経験、将来の目標を考慮したうえで、どの会社に応募するかを戦略的に決断をしていく必要があります。さらに学生はそれぞれの企業の競争率も視野に入れておく必要があります。人気のある企業だけに応募した場合、競争に勝ち内定を得ることはより難しくなります。応募する企業としては、絶対に入社したい企業を5社、第二希望の企業を10社、確実に入れそうな企業5社の割合で応募するのをお勧めします。

甘利：どのような会社に応募するかは学生によって異なります。私は2つの業界の7社に応募しました。私はどの業界で働きたいかということが決まっているので、特定の業界の会社のみ応募しました。自分がどのような仕事をしたいかまだ分からない、という私の友人たちは、様々な業界の少なくとも10社に応募していました。いくつの会社に応募するかということについては制限は設けられていませんが、活動できる時間は限られています。自分の中で葛藤があるならば、ある時点でどの面接を優先するのかを決めなければなりません。しかし大事なことはストレスを感じたときには即座に決断できるように、どの会社が自分にとって優先順位が高いのかを明確にすべきだということです。私の現地での日々は、面接で埋まっており、それは土曜日まで続きました。

飯野：私は3つの業界の9つの会社に応募しました。私が応募したのは憧れの2社と、その他は中間程度の会社です。会場では、様々な会社のブースに飛び込んだので、最終的にいくつの会社に行ったのかは覚えていません。日本語と英語両方の履歴書を持っていけば、各会社のブースに立ち寄るのは難しいことはありません。しかしCFN形式の履歴書（\*キャリアフォーラム形式）はなじみのない形式なので、ただ単にそれを持っていくだけでは成果を得られないでしょう。ブースに飛び込み参加した時に面接をした採用担当者を納得させるためには関心を持たれるような履歴書を持っていなければなりませんし、さらに言うと、面接官と話したい要点をブースに行く前に考えておかなければなりません。何も話さないのであれば、面接の後に連絡が来ることは無いでしょう。私はこの業界のことを知っています、本当にこの会社に興味がありますということを示す話を、ブースに行く前に準備しました。それが嫌であれば、チャ

ンスはないより1つでもあった方がマシだろうということでとりあえず飛び込んでみましょう。いずれにせよ典型的な日本の就職活動では、このように融通が利くことはないのですから。

### エントリーシート記入を練習する最善の方法

フォーラムに参加している会社に応募するためには、履歴書を提出することに加えて特別な小論文にも答えなければなりません。提出する書類が「エントリーシート」と呼ばれていることから、この過程はエントリープロセスと呼ばれています。一般的に、キャリアフォーラムのウェブサイトにはエントリーシートのどのカテゴリーの部分に記入すればよいか指示が書いてあるので、それに従って日本語と英語の両言語で記入します。英文の間違いを避けるためにも、ネイティブスピーカーに目を通してもらうのが肝要です。というのも、エントリーシートというのはその会社に対する第一印象であり、次の採用段階に行けるかどうかはこれだけで決まってしまうからです。小論文の質問については、なぜこの業界と会社に興味があるのかを述べることとなります。自分自身の描く将来の目標とその会社の魅力を含めて述べるのが大事です。

甘利：もし会社側が志望動機書の提出を求めてきたら、12ポイントの Times New Roman の書体で1ページに収めるのが良いでしょう。その時にも誰かに書類を校正してもらい、提出する前に感想をもらおうと良いでしょう。さらに、作成した履歴書をアップロードするようなことがある時には、最大でも1ページに収めなければなりません。採用担当者は2ページ目以降については目を通さないものですし、特に職歴のないたくさんの新卒生が集まる場ではこの傾向は特に顕著です。履歴書の内容は、応募した会社に関連するところを強調すべきでしょう。

飯野：多くの学生が志望動機書や小論文で「私は国際的な企業で働きたいです」と書くのですが、これはお勧めしません。そもそも国際的な企業って何でしょう。フォーラムに参加している会社はすべて、ある程度は国際的なわけです。さらに言うと絶対に注意しなければならないことがあって、それは例えアメリカ企業であっても顧客はみな日本人、労働環境はまさに日本そのものということもあるわけです。会社がアメリカや他の外国のものだからと言って、それは自動的に労働環境がアメリカ式や外国式ということではないのです。なので「国際的な企業に勤めたい」というのではなく、「会社の製品やビジネス、そこで働く人々に興味があります」といった方がずっと効果的でしょう。

甘利：また、ボストンキャリアフォーラムでは2つのエントリーシートを提出しなければなりません。そのうちの1つはキャリアフォーラムのウェブサイトを通して個々の会社に応募用紙を提出するために必要な DISCO（キャリアフォーラムの主催者）へのエントリーシートです。このエントリーシートには日本語と英語の両方で相当な量を書くことが求められます。早い段階から書き始めて、何度も何度も校正してください。小論文の質問は典型的なものですし、その分他のエントリーシートを書く際にも応用が利くので、ひとまず先にこれを完璧な状態に仕上げるべき、というのが私の助言です。

飯野：もうひとつのエントリーシートは各々の企業に提出しなければならないものです。このエントリーシートは、すでに DISCO に送ったエントリーシートに記載されている内容と組み合わせ、ひとつのセットとして各企業に送られます。またウェブ上でフォーラムに参加している企業の一覧を見てみると「応募する」と書かれたクリックボタンがあり、さらに各企業に提出しなければならない小論文に関する指示があります。日本語で 400 字の小論文課題もあります。企業の中には会社のホームページを通じてそれ以外の課題を必要とする企業もあるということです。そのため早い段階から始めて準備をする必要があります。小論文の問題は解答を使い回すことができるかもしれないので、戦略的に取り組みましょう。

### 電話・スカイプ面接の練習をする最善の方法

面接は日本語と英語の両方で行われますが、英語と日本語がどのような配分になるかは企業によって異なります。それに加え、オンラインテストやケーススタディ試験を課されることもあります。そのため、どちらにも対応できるように備える必要があります。聞かれる質問はとても一般的なものなので、自己 PR になる例を事前に練習しておけば心配する必要はありません。

甘利：私が最もよく聞かれた質問は以下のようなものです。

- ・なぜこの企業/職種に応募しようと思ったのですか
- ・5年間で達成したい目標は何ですか。10年間の場合にはどうですか
- ・過去に乗り越えた逆境について教えてください
- ・集団で何かをするときあなたはどのような役割ですか
- ・最近読んだ本の中で最も印象に残ったものを教えてください
- ・興味を持った新聞記事の内容について教えてください
- ・強みと弱みは何ですか
- ・他にはどの企業に応募しましたか
- ・なぜこの会社があなたの第1志望なのですか
- ・あなたの協調性/統率力/接客スキル/計画性がわかる例をひとつ挙げてください

考えを練り、それを簡潔にまとめてみると良いです。準備していない問題を聞かれることもありますが、会社が何を求めているか理解して自分の能力を示す方法があるのなら、論理的に考えをまとめればきつとうまくいきます。一方で、聞かれたことについて知らないのに、知っているかのように振る舞うのはよくありません。知らないことは素直に答えたり、他の会社にも応募していることを正直に告白しても全く問題ないのです。大事なことは、それぞれの会社に対して「御社が第1志望です」と思わせることなのです。お勧めなのは追加面接の練習のために **Glassdoor** というウェブサイト ([Glassdoor.com](http://Glassdoor.com)) を見て練習することです。アメリカでは人気の就職情報サイトで面接の質問なども紹介されています。仮にコンサルタント会社に応募したのであれば、ウェブ上に沢山あるサンプルを用いてケーススタディの練習ができます。

飯野：同感です。質問は上記の質問とほとんど同じものでした。私は大使館でのインターンシップの経験を通じてある企業について学ぶ機会が実際にあったので、面接官の興味に沿った答えに仕上げることができましたし、最終的にこの企業から内定を頂きました。この結果は他の応募者とは違うことを自分が実際に言うことができたからだと思います。インターン期間中に何をしたかが理解していたからこそ、なぜ自分はこの会社に興味があるのかより詳しい動機が得られました。

## 持ち物と服装について

- ・日本での就職活動の格好はとても地味で、黒または紺のスーツに白い襟のボタンドアンのシャツが普通です。就職活動時には様々な色のスーツやシャツを着て独自性を出してはいけません。ネクタイは派手目のものはつけてはならないし、女性はスカートスーツで臨むことが好ましいとされています。靴は黒で磨かれていなければならないし、女性はストッキングをはかなければならない、そして持ち運ぶカバンは黒色で見えるところに模様やロゴがあってはけません。カバンはノートや余分に持っていく履歴書、軽食を入れるのに丁度よい大きさであることが必要です。（ボストンのコンベンションセンターで食べ物を買うと、例えばクラムチャウダー6ドル・水3ドルのように割高で、かつ外に食べに行く時間はないので）

- ・日本人であれば黒髪で染めた髪はふさわしくないものと思われれます。就職活動シーズンになると金髪を黒に戻す日本人学生が良い例です。また日本人でない場合には、髪の色は統一され根元まで見えないほうが好ましいとされています。男性が首飾りをするのは好ましくありませんが、女性が小さいピアスをつけることは許容されます。そのほかの装飾品については、時計を除き好まれません。

- ・女性は最小限の化粧をするのが一般的です。ナチュラルカラーのアイシャドウをすることは許されますが、人工的な色をブラシやハイライターで過度に使うことはお勧めしません。

- ・余分に履歴書を持ち歩くことは重要です。フォーラムのウェブサイトで記入した履歴書やエントリーシートは、印刷しにくいので体裁が汚くなってしまいます。そのため日本語と英語両方で書かれた自分の綺麗な履歴書を持参した方がよいでしょう（元々のエントリーシートを提出した後に得た経験などを追加で書いて更新したものが良い）応募した業界ごとに履歴書の種類を変えて持っておくこともできます。日本語版と英語版、履歴書はそれぞれ20部ずつ持っているとうれしいです。もちろん会場にも印刷機はありますが、間違いなく長蛇の列ができていますので必ず余分に履歴書を持っていくようにしてください。

- ・ボストンは11月になるととても寒くなるので、スーツの上には羽織る上着を持っていきましょう。フォーラムにはクロークがあるのでそこで上着だけ預けることができます。ですがクロークは混雑しがちなので、時間配分に注意してください。



・面接時間変更の連絡を頻繁に受けるので、国際データ通信機能をオンにして持ち運び可能なWi-Fiは必要不可欠です。企業が連絡しやすい環境を整えておくことで、面接に向かうこともできれば夕食会に参加することもでき、さらに将来的には内定を得ることができるからです。使用前に国際データ通信の機能をオンにしなければ、莫大な費用を無駄にしないで済みます。面接官は実際に会場で何回も電話をかけてくるのです。

・Uberのアプリをインストールしておきましょう。Uberを使って会場まで行くほうが一般のタクシーを使って向かうよりも圧倒的に安価なので、Uberを使うことをお勧めします。また同じく安価な公共交通機関も使うことができます。遅刻をしないよう時刻表を確認して時間に余裕を持ちましょう。

・名札と入場券を忘れずに持参しましょう。これらはコンベンションセンターでも印刷することができますが、忘れて再発行等々をするのは時間の無駄なのでポストンに発つ前に持っていることをきちんと確認しましょう。

・いざという時に役に立つので現金は常に持参しましょう。

### BCF 会期中の夕食会での立ち振る舞い

優先順位の高い候補者については、夕食会やレセプションへの招待状が送られます。この夕食会やレセプションに参加することは、会社への関心の高さを示すだけでなく、最終的にこの会社が第1志望である証だと受け取られることとなります。このように会は、社交的なものではなく最終面接にあたります。ここではどのように他人と関わるか、どのように人と会話をするか、そしてマナーの善し悪しが観察されています。まず競争相手を含む全員の名前を覚え、内気な人を会話に巻き込んでその人にどのような才能があるかを確認しましょう。そして面接官は自分が希望している特定の部署の人である可能性が高いので、面接官にいくつか質問を試みましょう。よく練られた質問をするだけで、この人は事前に調べてきたのだな、ということが相手方には伝わります。

飯野：目の前に出されたものを食べる努力をしましょう。これはアレルギーのある物でも全部食べろというのではなく、極端に好き嫌いが激しいことが相手に伝わると良い印象を与えないからです。同様にお酒を飲む気分ではなかったり、飲もうと思っていない時には、お酒に見えるノンアルコール飲料を持ってきてくださいと給仕にお願いすれば良いのです。飲んでいない方が「お酒は苦手ですか？」や「まったく飲めないのですか？」の質問攻めになる事が多いので、お酒らしいドリンクを持っている方が仕事関連の質問に集中できます。食べている時に話すのも良くありません。誰かに質問されたときに口に食べ物が入っているならば、手で少し待ってくださいという仕草をするべきです。もちろんきちんとスーツを着て、夕食会であれレセプションであれ、面接であるという意識を持つことを忘れないでください。

## Part 3 BCF の後

### PART5 ポストンキャリアフォーラムの後には何をすべきか

会社には、フォーラムにおいて内定を出すところがある一方で、日本に帰ってからメールで内定を出すところもあります。一般的にはそれぞれの内定について回答期限が設定されているので、その内定の契約に法的拘束力があるかどうか確認する必要があります。（通常の場合であれば法的拘束力はありません）またフォーラムの次の土曜または日曜に署名が必要な契約書がもらえることがしばしばあり、その会社へ就職を希望するならば署名すれば良いでしょう。特に内定が決まっている場合には日本に帰国後、人事部の担当者からその職務の内容についてほぼ確実に追加で連絡が来ます。2018 年の内定については 2016 年秋から出すことができますが、それが変わる可能性も十分にあります。よくあることですが、ある会社の内定を辞退して他の内定をとっても、申し訳なく思う必要は全くありません。

## Part 4 まとめ

甘利：私はフォーラムに 2 回参加しました。1 回目はひとつも内定を得ることができませんでしたが、2 回目には応募した全ての会社から内定をもらうことができました。成功した理由は、自分の興味のある会社に勤めている大学の OB と話すことも含め全過程において準備をしたこと、十分な時間をかけて企業研究をしたこと、エントリーシートを完璧に仕上げたこと、そして面接の練習をしたことがあげられます。私は自分自身がずば抜けて頭が良いとは思っていませんが、十分に準備を行い運が良かったのだと思います。就職活動において運は重要な要素のひとつです。もし内定がひとつも取れなかったとしても、それは能力がないということではなく、応募した会社が少なすぎたことや十分に準備をしなかったことが考えられます。全員が Google と Facebook に応募して、自分も Google と Facebook にしか応募していなかったとすれば内定が得られないのも無理はありませんが、これも頭が悪いということではありません。どの会社に何社応募するかは、自分の強み、興味関心、性格、話を作る能力を考慮して決めることなのです。

飯野：私はこのフォーラムでこれほど多くの成果が得られるとは思っていませんでした。参加しようと思ったのも 9 月ですし、他の学生に比べると十分に準備できていたとは思えません。実際に得られた成果は期待していた以上のものでした。この成果は、ボストンに行くのに 30 万円払う価値があるものでした。一方でもう少し早くから準備を始めておけば良かったと後悔もしています。私は会場からタクシーで 30 分のところにあるホテルしか予約ができなかったもので、交通費も高くなり、早起きする必要がありました。他の交通手段を使うこともできましたが、駅やバス停などへの指示標識を探すために時間を無駄にはしたくなかったのでやめました。また、本当はより多くの会社に応募したかったのですが、内定を得る確率を上げるために複数の企業に集中しなければなりませんでした。早い時期から準備をすることは非常に大事であり、これから参加しようと考えている人たちには早めに準備しておくようにお勧めします。アメリカ大使館でのインターンシップの経験というのは本当に役立ちました。例えば自分の持っている能力をどのように応用するかを考え、様々な業界についての知見を得ることができました。そして自らの経験を話してくれた大学の人と話せたこともとても役に立ちました。このフォー

ラムに実際に行った人を、ぜひ先輩として活用してください。この先輩の助言は必ず役に立ちますし、進んで自分の見識を共有してくれるでしょう。

## **Part 5 BCF 準備スケジュール**

- 5月 応募する企業についての大まかなイメージを作りましょう。参加する企業が5月の時点では全てリストアップされていない可能性もありますが、過去に参加している企業のリストを見れば、どの企業が参加するかは予想できるでしょう。
- 6月 ホテルや飛行機などの予約を考えましょう。ホテルを会場の近くに取りたければ、6月の段階から予約をするべきです。（飯野の場合、9月にホテルを取ろうとした結果、タクシーで会場まで30分かかるホテルに泊まることになりました。）  
飛行機のチケットの予約は早めに行なえば行なうほど、安くなりますので早いに越したことはありません。キャリアフォーラムのウェブサイトのアカウントも作成しておきましょう。
- 7月 履歴書、志望動機書などの下書きを行ないましょう。どの業界にも通用する一般的な形式のもの、ある決まった業界におけるどの企業にも通用する形式のものを作成すれば後々手間が省けます。さらに、エントリーシートなどで頻繁に聞かれる質問などに対しても準備を行ないましょう。例えば、「学生時代に最も力を入れて取り組んだことをお答えください。」や「なぜこの業界を志望しているかをお答えください」など。
- 8月 アカウントを作成されたウェブサイトの My CFN のタブより、履歴書を完成させましょう。書く量が非常に多く、かつ日本語と英語の両方で記入しなければなりません。この履歴書は企業に、キャリアフォーラムのウェブサイトから事前応募をする際に送信される仕組みになっています。複数の内容の履歴書を保存することはできないので、二つ以上の業界を事前に応募する場合は履歴書自体もその都度、編集が必要となります。企業により異なりますが、事前応募の際に答えなければならない質問などにも手を付けましょう。
- 9月 応募しましょう。全ての企業がまだ記載されていない可能性もありますが、ウェブサイトに100以上の企業は既にリストアップされているはずです。キャリアフォーラムのウェブサイト上のみならず、企業専用のウェブサイトからも応募を求められるケースがありますのでキャリアフォーラムのウェブサイトから応募するのは早いに越したことはありません。次の採用段階に進む確率が低くなるため、締め切り近くまで待つ提出などは行なわないでください（通常では11月18日ごろ）。早めの応募をお勧めします。
- 10月 9月中に事前応募をした場合、企業から連絡などを受け始めます。まず、ウェブテストの受験を求められます。ウェブテスト選考を通過した場合には、電話面接、スカイプ面接、ビデオ面接（録画）、もしくは日本での事前面接などがある可能性があります。こちらもしっかりと準備しておきましょう。日本に進出してからまだ日が浅い企業の場合

であれば上記のような形を取るケースが多く見られます。日本企業の多くはウェブテストで日本におけるプロセスを終了します。

- 11月 事前面接のプロセスを全て終えた場合、残るはボストンでの面接のみです。スケジュール管理を怠らず、教授などに授業を休むことをあらかじめ伝えておきましょう。特に日本人の学生の場合にはボスキャリアがある時期は中間試験の時期と重なる確率が高いので、気をつけましょう。さらに面接が既に確定している企業の日程などは手帳などに記入しておきましょう。会場はとても広いので、あらかじめ次の面接がどこの企業かなどを把握できていれば時間を無駄にせずすみませす。
- 12月 ウォークインを利用して企業に応募した場合、面接がボストンキャリアフォーラムでは終わらず、日本において最終面接が行なわれるケースも多くなります。11月末から12月にかけて行なわれるため、準備する時間が逆に増えたと考え用意しましょう。しかし、忘れてはならないことは、最後のポジションのために争っている可能性が高いという事です。（ウォークインではなく、事前応募の方々はまだ選ばれている可能性が高いです。）しかし、ウォークインにおいても例外などが存在します。